

# 橋梁中長期管理計画

令和8年3月

静岡県交通基盤部 道路局 道路整備課

# 目 次

第1章 計画策定の目的 .....	1
第2章 橋梁の現状と課題 .....	2
2-1 橋梁の現状 .....	2
2-2 橋梁の課題 .....	2
第3章 中長期管理計画 .....	4
3-1 計画の策定 .....	4
3-2 計画の策定効果 .....	4
3-3 事後評価 .....	5
3-4 計画の見直し .....	5
学識経験者等からの意見聴取 .....	6

## 第 1 章 計画策定の目的

---

静岡県の管理する橋梁は、高度経済成長期に架けられた橋梁が高齢化しているため、損傷が軽微な段階で予防的な補修を実施することで機能の保持・回復を図る予防保全型管理へ本格転換していくことを目的とし、長寿命化を含めた最適な維持管理を実施するための「橋梁中長期管理計画」を策定した。

橋梁長寿命化への取組により、次のような効果の実現を目指す。

### 橋梁長寿命化の効果

- 道路交通の安全性確保（点検による損傷の早期発見と効率的な補修の実施）
- トータルコストの縮減と予算の集中回避（予防的な対応へ転換し、費用を平準化）

中長期管理計画は、劣化予測の結果を基に、維持管理に関わる 50 年間の投資計画を立案するものである。

静岡県では、社会資本の特性に応じた最適な維持管理を行い、長寿命化を図ることで、管理コストの低減や平準化などを目指す「社会資本長寿命化計画」を推進している。

橋梁についても、高度経済成長期に架けられた橋梁が高齢化しているため、損傷が軽微な段階で予防的な補修を実施することで機能の保持・回復を図る予防保全型管理へ本格転換していくことから、長寿命化を含めた最適な維持管理を実施するための「橋梁中長期管理計画」を策定した。

## 第2章 橋梁の現状と課題

### 2-1 橋梁の現状

静岡県では、令和7年4月時点で3,291橋を管理している。

本県は、豊かな自然環境に恵まれているが、県内の橋梁は次のような厳しい環境条件下にある。

四大河川、山間部、海岸沿い等の厳しい自然条件にあり、劣化しやすい橋梁群

- ◆富士山を始めとした山々が連なり、寒冷地・狭谷部等に位置する。
- ◆山地から流れる四大河川（狩野川・富士川・大井川・天竜川）を跨ぐ。
- ◆南側に約500kmの海岸線があり、塩害の影響を受けやすい。



図-2.1 静岡県の橋梁を取り巻く環境

### 2-2 橋梁の課題

#### (1) 橋梁の高齢化

橋梁の年度別の建設数の推移を、図-2.2に示す。建設から現在まで50年以上経過した施設の割合が60%であり、今後20年後には、建設から50年以上経過した施設が80%を超える見込みである。

また、高齢化により著しい損傷が顕在化している橋梁も確認されている。図-2.3に代表的な損傷写真を示す。

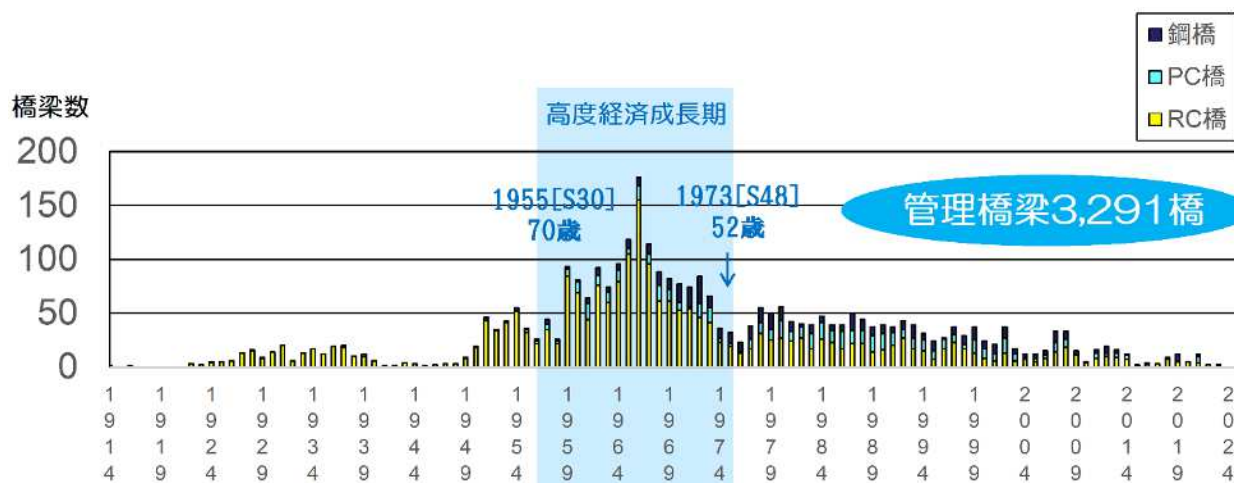


図-2.2 建設数の推移



塗装の劣化（鋼橋）



剥離・鉄筋露出（コンクリート橋）



漏水・遊離石灰（コンクリート橋）



ひび割れ（下部工）

図-2.3 橋梁における代表的な損傷写真

## （２）投資的経費の推移

交通基盤部の予算は、年度当初予算では平成8年度の約2,330億円をピークとし、その後は、政令市への権限移譲などの影響もあり大幅に減少しており、令和5年度は、旧土木部予算ベースで見ると約1,063億円と、ピーク時の半分以下となっている。このように、建設関係予算はピーク時から大幅に減少しており、施設整備とあわせて、維持管理のための十分な予算確保が必要な状況である。

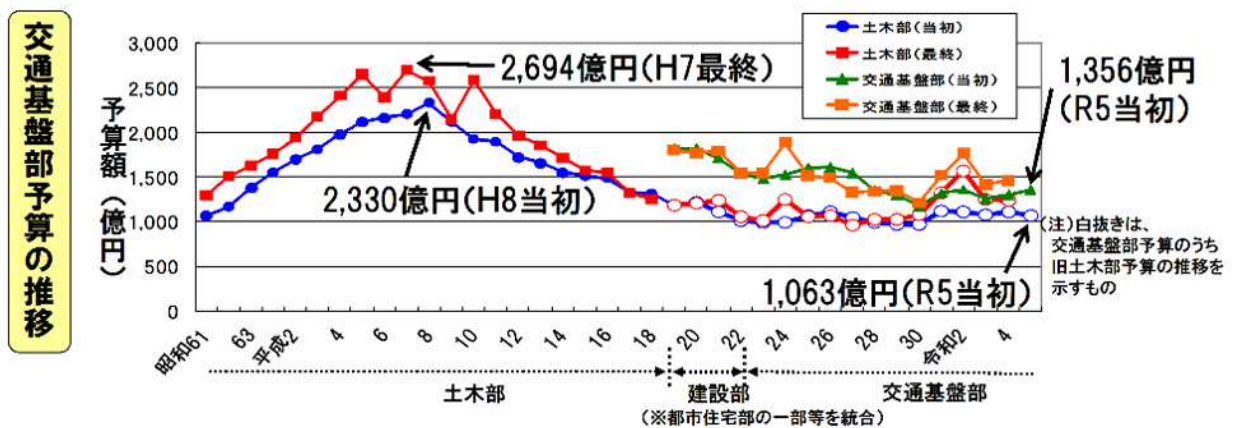


図-2.4 静岡県の予算推移、交通基盤部の予算推移

(出典) 静岡県交通基盤部 「社会インフラ長寿命化行動方針」 R6.3

## 第3章 中長期管理計画

### 3-1 計画の策定

目標管理水準・耐用年数の設定など計画の策定方法は「橋梁ガイドライン」を参照する。

### 3-2 計画の策定効果

予防保全型の維持管理と事後保全型の維持管理の50年間に発生する修繕及び更新に要する経費を比較することによって計画策定の効果を検証する。

事後保全型の維持管理を行った場合、今後50年間で補修及び更新に要する維持管理費は、総額で約3,492億円となる。

これに対して、予防保全型の維持管理を行った場合、今後50年間で補修及び更新に要する維持管理費は、総額で約2,313億円となり、約1,179億円の縮減が見込まれる。

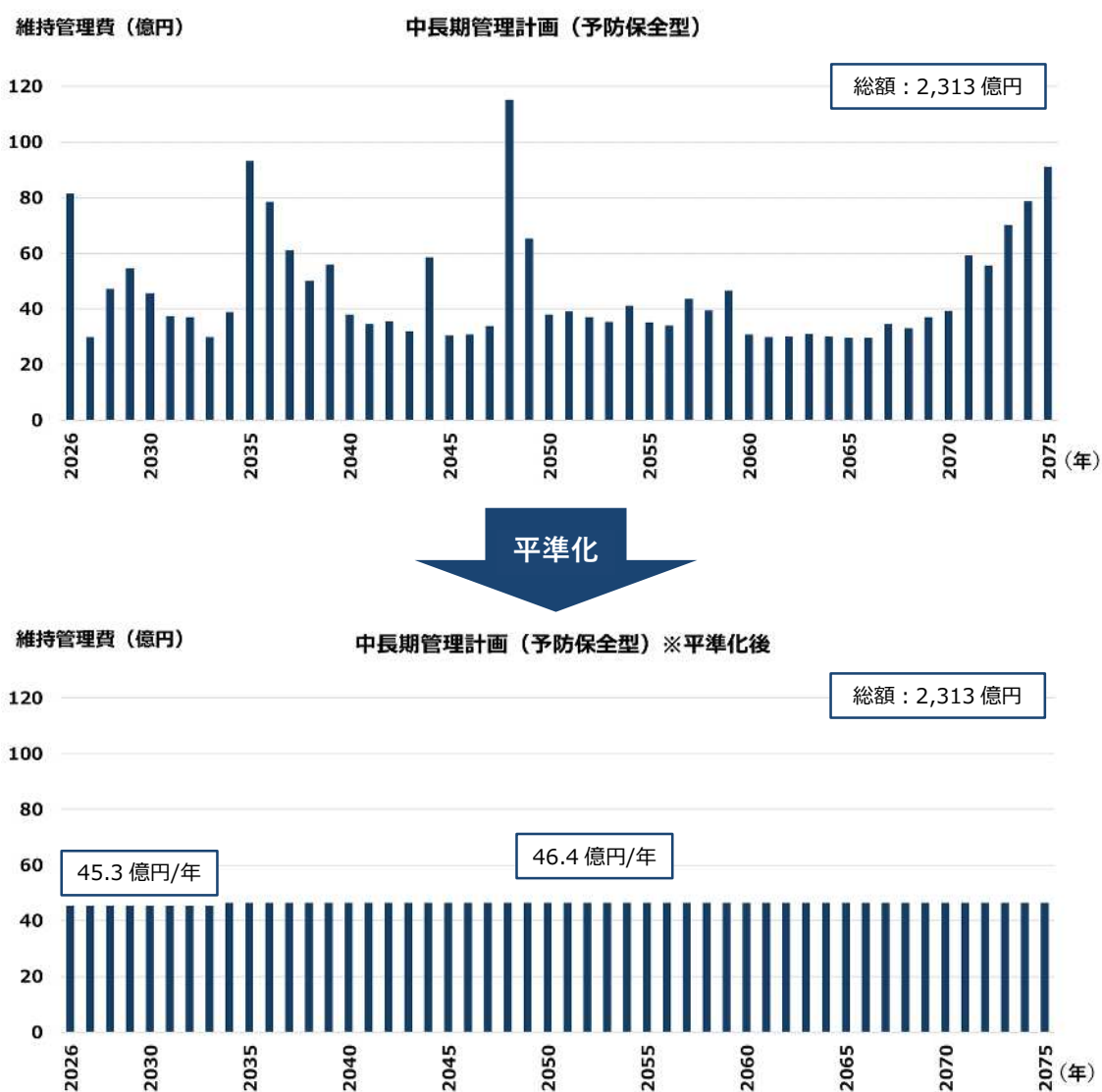


図-3.1 50年間の予防保全型の維持管理費

### 3-3 事後評価

法定点検3巡目や4巡目の結果が蓄積された段階で、点検結果の遷移や損傷要因を分析し、実施効果を検証する。

法定点検1巡目から2巡目の点検結果の遷移を図-3.2に示す。

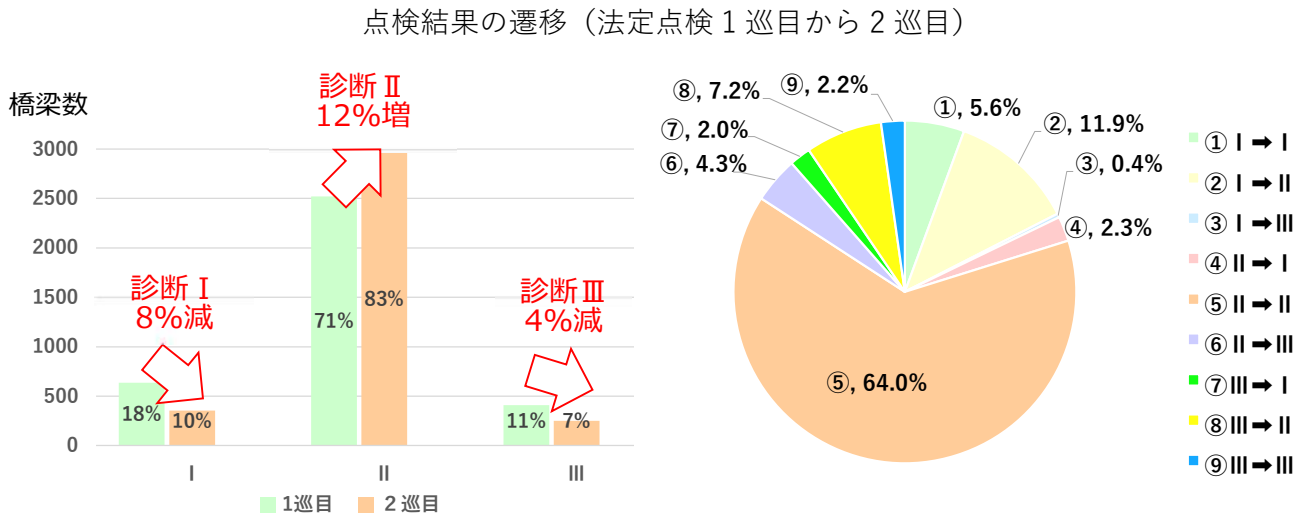


図-3.2 事後評価のイメージ

### 3-4 計画の見直し

点検・補修等の実績に基づき、各種データが蓄積した段階で中長期管理計画の見直しを行う。

見直しにあたっては、蓄積された点検データの分析、補修等の履歴の整理を実施して、橋梁ガイドライン・橋梁点検マニュアルに示されている以下の事項についての再検討を行う。

- ・ 調査・点検方法（点検項目、点検頻度等）
- ・ 橋梁の状態の評価方法（診断Ⅱの細分化方法等）
- ・ 劣化曲線の作成方法
- ・ 標準的な補修工法の選定方法
- ・ 耐用年数の設定方法
- ・ 立地条件、交通量等を考慮した重要度の設定方法
- ・ 新技術の選定方法
- ・ 塩分の影響を受ける橋梁への予防保全対策 等

## 学識経験者等からの意見聴取

本計画は、令和6年度から令和7年度にかけて開催した「静岡県社会インフラ長寿命化計画（橋梁及び大型構造物）改定委員会」にて、学識経験者等から意見を聴取し、その意見を参考にして策定した。

### 静岡県社会インフラ長寿命化計画（橋梁及び大型構造物）改定委員会（委員長1名、委員7名）

区分	所属
学識委員	○名古屋大学大学院 工学研究科 土木工学専攻 教授 舘石 和雄
	山梨大学大学院 総合研究部 工学域 土木環境工学系 教授 斉藤 成彦
	横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院 教授 藤山 知加子
	一般社団法人日本建設機械施工協会 施工技術総合研究所 研究第二部 部長 小野 秀一
行政委員	道路局長
	道路企画課長
	道路整備課長
	道路保全課長

※○=委員長